

たかおか 溫故知新

きょくおん
「玉音放送」を死守した 大橋 八郎(1885~1968)

八郎は、昭和の官僚・政治家、NTT総裁です。大橋家(鶯塚屋)は現高岡市木町の豪商で町年寄も務めた旧家でした。先祖は能登畠山氏の家臣で、のち前田利長から木町に土地を与えられたといいます。八郎は分家の11代目にあたり、高岡に茶道・叢内流を広めた侗斎(やぶのうち)は曾祖父、県議・漢詩人の弘(二水)は伯父にあたります。

八郎は高岡中学校(現県立高岡高校)から石川県尋常中学校(現石川県立金沢泉丘高校)、第四高等学校(現金沢大学)を経て、1910年東京帝国大学法学部政治科を卒業し、遞信省(現総務省の一部)に入りました。1931年遞信次官となり、翌年同大臣となった南弘(氷見市出身、高岡市中川の南家養子)を支え、長年の懸案事項であった通信事業特別会計法案の成立に尽力し

ました。のち内閣法制局長官となります。1936年「2・26事件」が起きた事態の処理にあたりました。次いで内閣書記官長を経て、貴族院議員となります。その後、国際電気通信社長、日本放送協会(NHK)会長を務めました。昭和天皇による「玉音放送」録音に立ち合い、録音阻止、レコード奪取をはかる過激派軍部から守り抜きました。

1946年2月、公職追放されますが、1952年設立された日本電信電話公社(現NTT)の経営委員長、のち総裁となり、1965年80歳まで電信電話事業の育成発展に努めました。御馬出町のNTTビルの角に胸像があります。

八郎は「越央子」と号する俳人でもあります(44歳で高浜虚子門下)。句集は『野梅』、『市谷台』などがあります。1965年、高岡市名誉市民となります。

(仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館 TEL 20-1572



大橋八郎